

JILPT 資料シリーズ

No.118 2013年5月

男性の育児・介護と働き方 —今後の研究のための論点整理—

男性の育児・介護と働き方
—今後の研究のための論点整理—

まえがき

仕事と家庭の両立は長く女性労働のテーマとされてきた。だが、今や女性だけの問題ではなく、男女共通の問題であるという認識が広がりつつある。

広く知られているように、育児・介護休業法は、両立支援の対象を女性に限定していない。実際に育児休業を取得する労働者の大半は女性であるが、近年は男性の取得者も少しずつだが増えつつある。また、妻の出産の立会いや病気の子どもの看護といった理由で、男性が仕事を休むという報告も聞かれるようになり、「イクメン」という言葉も流行した。介護もまた古くは女性の問題とされてきたが、主たる介護者として家族の介護を担う男性は増加傾向にある。経営の屋台骨を支える管理職の男性が介護を理由に退職するというケースも報告されており、介護退職は労働者のみならず企業にとってもダメージが大きいという認識が広がりつつある。

もちろん現在も切実な両立困難に直面する労働者の多くが女性であることに変わりはない。だが、男性にも目を向けて、男女がともに仕事にも家庭生活にも生き生きとかわることのできる政策を推進していくことが、今後はますます重要になるだろう。こうした問題意識にもとづいて、当機構では、平成 24～28 年度の研究として「育児・介護と男女の働き方に関する研究」を企画した。本資料シリーズは、その初年度のとりまとめであり、男性介護者を対象としたヒアリング調査と既存データの二次分析を通じて、今後の調査研究に向けた論点整理を行っている。

男性介護者のヒアリング調査からは、介護に対応するために仕事を休む必要性だけでなく、仕事を休まずに介護との両立を図ろうとする労働者に生じる問題にも目を向けることの重要性が指摘されている。また、既存データの二次分析による男性の育児参加・労働時間・人事制度の論点整理から、土日の勤務や、職務の裁量性と成果の管理の問題、人事労務管理に関する男女の受け止め方の違いなど、メリハリの利いた働き方を検討するための課題が様々に提示されている。

本資料シリーズが契機となって、仕事と家庭の両立支援の新たな展開に向けた議論が活発になることがあれば幸甚である。

2013 年 5 月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 菅野和夫

執筆担当者

氏名	所属	執筆担当
いけだ しんごう 池田 心豪	労働政策研究・研修機構 副主任研究員	序章、第1章、終章
はしもと かよ 橋本 嘉代	労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員	第1章
まつだ しげき 松田 茂樹	第一生命経済研究所 主席研究員	第2章
たかみ ともひろ 高見 具広	東京大学大学院博士課程	第3章
まつばら みつよ 松原 光代	東レ経営研究所 主任研究員 兼 コンサルタント	第4章

育児・介護と男女の働き方に関する研究会参加者（五十音順）

池田心豪	労働政策研究・研修機構 副主任研究員
高見具広	東京大学大学院博士課程
津止正敏	立命館大学教授
橋本嘉代	労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員
堀田聡子	労働政策研究・研修機構 研究員
松田茂樹	第一生命経済研究所 主席研究員
松原光代	東レ経営研究所 主任研究員 兼 コンサルタント

平成 25 年 3 月末現在

目 次

序章 調査研究の目的と概要	1
1 研究の目的	1
2 研究体制	3
3 研究方法	3
4 男性介護者の働き方に関するヒアリング調査概要	4
5 ヒアリング調査結果概要	7
6 既存データの二次分析結果概要	7
7 二次分析に使用したデータの概要	8
第1章 男性介護者の働き方に関するヒアリング調査結果	9
1 要介護者の状態と家族の介護負担	9
2 介護期の就業	15
3 介護サービスの利用と就業	21
4 介護期の経済生活	26
5 まとめ	29
第2章 男性の育児参加の現状に関する基礎的分析	32
1 問題設定	32
2 データと変数	32
3 育児参加の現状	33
4 働き方の現状	35
5 働き方と家事・育児分担の関係	36
6 働き方と仕事と生活の現状に対する意識の関係	38
7 まとめ	39
第3章 勤務時間・場所の柔軟性と家庭生活	40
1 はじめに	40
2 勤務時間・場所の柔軟性と家庭生活への影響——先行研究から	41
3 勤務時間の柔軟性と働き方——勤務時間制度との関係を中心に	43
4 勤務場所の柔軟性——自宅に仕事を持ち帰るという働き方の検討	48
5 仕事を自宅に持ち帰ることと男性の家庭生活	54
6 男性における生活時間の不足感——仕事を持ち帰ることの影響の検証	58
7 まとめ	62

第4章	キャリア意識の高いWLB制度利用者の職場要因等に関する分析	64
1	問題意識	64
2	データと変数	65
3	分析方法	68
4	予備分析：職場要因における男女の違いの有無について	68
5	推計結果	69
6	まとめ	72
終章	まとめと今後の課題	74
付属資料	ヒアリングレコード	81